



藤倉 泰治 (日本共産党)

市内まで鉄道を復旧し「仮設陸前高田駅」を

質問 JR側から今回提案された、気仙沼駅発着のBRT・バス方式仮復旧案に対する考えはどうか。

答弁 JRの鉄道再開を待っていても市民の足の確保にならない。今回の提案を前向きに検討したい。

質問 気仙沼駅と陸前矢作駅間全17*はレールがすべて残っている。気仙沼駅発着ではなく、できる限り市内の被災地近くまで



復旧が求められるJR大船渡線(下矢作)

での鉄道復旧と、「仮設陸前高田駅」をつくることをJRや国に強く働きかけるべきではないか。また、一ノ関駅からのノンストップ復興列車、大船渡直通バスの運行や被災地の案内所の設置など、復興のための鉄道利用計画を示していくべきではないか。

答弁 費用面でもスピード面でも陸前矢作駅までの復旧が望ましい。JRから「陸前矢作駅までの鉄道復旧の声がこんなに強いことを初めて知った」と言われたが、JRの考えも少し変わってきた印象を持つ。大船渡、気仙沼の三市も一致して要望している。

市街地及び市役所の予定地について

質問 「高田・今泉地区土地利用計画検討案」では、地形や地質等の自然条件を把握しているのか。

答弁 市街地は気仙川の扇状地であり地層は沖積層である。日本土木学会から全面的な地盤改良の必要は認められないとの報告を受けている。より安全を期するため、市独自のボーリング調査を今泉地区10か所、高田地区32か所のかさ上げ地で実施

議案の審議・結果 〈9月定例会〉

平成24年度第3回定例会は、9月7日から9月26日までの20日間の会期で行われました。報告2件、人事案2件、執行前提案4件は開会初日の本会議で即決となり、その他の執行前提案2件、条例案4件、補正予算案7件及び決算案8件は、決算等特別委員会(佐藤信一委員長)に審議が付託され、4日間にわたる診査の後、26日の本会議において、原案どおり可決されました。

報告第1号及び第2号は、地方公共団体の財政健全化に関する法律の規定による「健全化判断比率」と「資本不足比率」の報告です。本市の平成23年度の状況について、関係書類等が適正に作成されている旨の監査委員からの審査意見が付され、報告がありました。

◆教育委員の任命に同意

議案第1号と第2号は、教育委員会の委員として、次の方の任命に同意しました。

○陸前高田市高田町字鳴石

横田 祐佑 氏(69歳)

○北上市里分

山田 市雄 氏(60歳)

◆市道路線廃止など4件を即決

議案第3号と第4号は、中野地区に災害公営住宅を建設す

ることに伴い、下和野3号線を廃止し、また、下和野線の路線を変更するものです。議案第5号と議案第6号は、外国人住民が住民基本台帳法の適用対象となったことに伴い、岩手沿岸南部広域環境組合と気仙広域連合の規約の一部を変更するものです。

議案7号は、下和野地区災害公営住宅の譲渡契約を、独立行政法人都市再生機構と27億6984万円で締結するものです。

議案第8号は、高田町及び気仙町内の被災市街地復興整備事業の業務委託契約を独立行政法人都市再生機構と251億1790万円で締結するものです。

◆条例改正案を可決

議案第9号は、火気設備等の

し、適切な工法を検討し盛土計画に反映させたい。

質問 市役所、市民文化会館や道路等はこの土地利用計画で決まっていくのか。

答弁 今回の土地利用計画案は、住宅の再建、用地確保を主眼に土地区画整理事業のための手法。市役所の位置については、商工会の強い要望も含め現在の検討案として示している。

「私的整理ガイドライン」を使い被災ローン対策を

質問 被災ローン減免制度として、新たにつくられた「個人版私的整理ガイドライン」は、専門の弁護士等が金融機関と交渉する仕組みであり、有効活用すべきではないか。

答弁 「ガイドライン」の利用については、毎月市役所で個別相談会が開催され、相談件数は約60件、30〜40件ほどの利用になっている。更なる周知を図っていく。



被災ローン救済のパンフ

取扱いに関する市火災予防条例の一部を改正するものです。

議案第10号は、一般職の任期付職員を採用することに関する条例です。議案第11号と第12号は、高田及び今泉地域で土地区画整理事業を施行することに関する条例です。

◆補正予算案を可決

議案第13号から第19号までは、平成24年度の補正予算案で、議案第13号の一般会計補正予算案は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ88億4208万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ1017億4506万円とするものです。

◆平成23年度決算を認定

議案第20号から第27号までは、平成23年度会計決算で、決算等特別委員会において、慎重に審議が行われました。

平成23年度の決算状況は、歳入決算額586億9893万円(執行率88.2%)、歳出決算額523億2991万円(同78.6%)となり、歳入歳出差引額は63億6901万円、実質収支では39億4636万円の黒字となりました。

| 提出議案及び審議結果 (平成24年第3回定例会) | | | | | |
|--------------------------|----------------------------------|------|--------|--|------|
| 報告第1号 | 平成23年度陸前高田市健全化判断比率の報告について | 報告 | 議案第16号 | 平成24年度陸前高田市漁業集落排水事業特別会計補正予算(第1号) | 原案可決 |
| 報告第2号 | 平成23年度陸前高田市資金不足比率の報告について | " | 議案第17号 | 平成24年度陸前高田市国民健康保険特別会計補正予算(第2号) | " |
| 議案第1号 | 教育委員会の委員の任命について | 同意 | 議案第18号 | 平成24年度陸前高田市介護保険特別会計補正予算(第2号) | " |
| 議案第2号 | 教育委員会の委員の任命について | " | 議案第19号 | 平成24年度陸前高田市水道事業会計補正予算(第2号) | " |
| 議案第3号 | 市道路線の廃止について | 原案可決 | 議案第20号 | 平成23年度陸前高田市一般会計歳入歳出決算 | " |
| 議案第4号 | 市道路線の変更について | " | 議案第21号 | 平成23年度陸前高田市下水道事業特別会計歳入歳出決算 | " |
| 議案第5号 | 岩手沿岸南部広域環境組合規約の一部変更の協議について | " | 議案第22号 | 平成23年度陸前高田市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算 | " |
| 議案第6号 | 気仙広域連合規約の一部変更の協議について | " | 議案第23号 | 平成23年度陸前高田市漁業集落排水事業特別会計歳入歳出決算 | " |
| 議案第7号 | 災害公営住宅の譲渡契約締結について | " | 議案第24号 | 平成23年度陸前高田市国民健康保険特別会計歳入歳出決算 | " |
| 議案第8号 | 陸前高田市被災市街地復興整備事業の業務委託契約締結について | " | 議案第25号 | 平成23年度陸前高田市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算 | " |
| 議案第9号 | 陸前高田市火災予防条例の一部を改正する条例 | " | 議案第26号 | 平成23年度陸前高田市介護保険特別会計歳入歳出決算 | " |
| 議案第10号 | 陸前高田市一般職の任期付職員の採用に関する条例 | " | 議案第27号 | 平成23年度陸前高田市水道事業会計決算 | " |
| 議案第11号 | 陸前高田都市計画事業高田地区土地区画整理事業施行条例 | " | 請願第5号 | 東日本大震災に係る議会の役割、市政の在り方について | 継続審査 |
| 議案第12号 | 陸前高田都市計画事業今泉地区土地区画整理事業施行条例 | " | 請願第6号 | 市道六ヶ浦1号線側溝の改良補強整備、左折箇所拡幅改良及び路面舗装工事について | 採択 |
| 議案第13号 | 平成24年度陸前高田市一般会計補正予算(第3号) | " | 請願第7号 | 広田湾の内湾を中心とした緑の連続した防潮堤整備について | 継続審査 |
| 議案第14号 | 平成24年度陸前高田市下水道事業特別会計補正予算(第3号) | " | | | |
| 議案第15号 | 平成24年度陸前高田市農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号) | " | | | |

産業建設常任委員会行政視察

◆淡路市土地区画整理事業

産業建設常任委員会(清水幸男委員長)は、7月23日から25日にかけて、阪神・淡路大震災で被災した淡路市を訪ね、土地区画整理事業と国営明石海峡公園整備計画について視察・研修を行いました。

淡路市富島地区は、平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災の震源地に近く、大きな被害を受けました。震災前は、幹線道路も狭く、幅員1層程度の小道が網目状に走る島特有の道路環境。

土地区画整理事業により不整形な土地を整理することで道路を拡幅し、また、防災拠点となる公園を配置しました。同事業は、震災直後の2月のアンケート調査から始まり、同年7月には都市計画区域指定を受けました。行政と市民が一体となった取り組みであったことが伺われます。

この公園は、大阪や神戸などでの大都市型の災害に対して、支援基地としての可能性も期待されます。

◆国営公園の整備計画



国営明石海峡公園の状況を調査した産業建設常任委員会

が管理する国営明石海峡公園は、明石海峡大橋を挟んだ淡路地区と神戸地区の2地区で構成されています。今回訪問した淡路地区は、関西国際空港の造成のため切り出された約1000畝の跡地に、自然と人との共生、人と人との交流を目指して造成されました。

平成22年度は花と緑のフェアが開催され、入場者は約60万人となりましたが、平成23年度は38万5000人と全体としては減少傾向にあるとのことでした。